〈50年度看護マンパワー研究会〉

ヘルスマンパワーの需給に関する研究

——各種看護関係学校の入学状況調査——

方波見　重兵衛*

調査協力：岩　下　清　子**　渡　辺　百合子**

1.　はじめに

保健，医療の中で，ヘルスマンパワーの問題は最も重要なものの1つである。それは国民の保健を推進する上においてやはり人が中心であるからである。

またヘルスマンパワーの中で看護関係職員の動向が質量ともに現在最も注目されており，現在のみならず将来を考えると，看護職員の確保，従って，その養成が重要な問題であり，その対策が急を要することは論ずるまでもない。

ヘルスマンパワーの問題は，単に人だけの問題ではなく，国の対策，経済の動向に左右されるのはもち論であるが，著者が数年来主張してきたように，直接的には勤務する場所である施設，すなわち，病院，診療所，保健所など，また施設を訪れる患者数の動向と密接な関係があり，それらによって左右される。

例えば，日本は世界の中で最高レベルの人口対病床数をもち，高い病床増加率である。それが原因の1つとなって，世界の中で例をみない平均在院日数の長さ，増加率の高さを示している。それはまた入院患者数の増加を意味している。看護婦数の約70%は病院勤務であり，病床数の多寡とその増加率に左右される。従って，この病床数に対応する十分な看護婦数を確保することは決して容易なことではない。

現在最も重視され，論評の的となっているのは10種類を超す看護関係職員の養成機関である大学から高校までの中で，最も多数の看護婦を養成している准看護婦養成所である。それは日本における学校教育の動向が変化し，すなわち定時制を含めると90%以上の高校進学が，中学卒を資格とする准看護婦養成所の存在を困難にしていることは容易に想像される。

また，3年制の高等看護学院は現在看護婦養成の中心であるが，やはり問題が生じ，将来の看護マンパワーの確保に危機を訴える人も少なくない。

しかし，その対策として，いかにすべきかが問題である。将来予測の結果から考えて，少なくとも現在の養成数を質量ともに確保すること

* 国立公衆衛生院

** 日本看護協会調査研究部

は最重要事であるので，改革を目指すとしても細心な注意が必要である。養成機関の最も理想的な姿とそれへの道の中で，最も妥当で実現可能な道はどれかを模索する必要がある。

現状を理解するには，将来の予測が必要であり，それには多くの詳細な資料を必要とする。しかし看護関係職員についての資料は十分とはいい難い。

ここで著者らは，看護婦供給の基礎資料の1つと考えられる看護関係養成機関の入学状況について調査を行なった。現在の看護婦養成制度に対する考察，将来需給の予測などの基礎資料として寄与することができれば幸である。

2. 調査目的，調査対象と調査方法

2—1 調査目的

上に述べたように，看護婦の将来需給についての問題点，予測についての基礎資料として次のような情報が必要である。

a） 入学状況の中で，入学定員，受験者数，入学許可数，補欠入学者数，成績などから，またその年次推移から質的量的両面からの供給の可能性を知る。

b） 求人，就職状況。各看護関係職員養成所の入学者の選考・決定状況などについての情報を把握する。

2—2 調査対象および調査方法

看護関係の大学，短大，各種養成所，高校の中で，准看護婦養成所（以下，准看養成所）は632校の中2/3，その他はすべての学校に対し，調査票を郵送し記入を依頼した（昭和50年12月）。

3. 調査結果

3—1 回収状況

回収状況は表—1に示した通りで，発送総数1285校中回収数632校，回収率49％であった。

回収数はほぼ全体の半数であるので，各養成所の問題について考察を加えるには，あまり偏ったデータでないことが望ましい。そこで，大雑把ではあるが，各種養成所別地域分布とその回収状況をみたのが表—1である。主な養成所について，回収養成所の地域分布について適合度検定を行なったが，養成所の地域分布と同一分布であるという仮設は棄却されなかった。従って，少なくとも回収された養成所の地域的分布に偏りはないと考えてよいと思う。

次に，看護婦3年課程(短大を含む)，2年課程(短大・高専を含む)，准看養成所について回収校の設置主体別分布の適合度検定を行なったところ，看護婦3年課程については有意でなく同分布と考えてよいと思われる。しかし，看護婦2年課程，准看養成所に関しては，有意であり同分布とはみなされない。すなわち，両養成所とも日赤，済生会，医師会，その他などの回収校が相対的に少なく，国，都道府県，市町村開設の養成所が相対的に多い（表—2）。従って，各項目の中で設置主体別に大きな差があるときは考慮する必要がある。

3—2 大学，短大，養成所の背景

(1) 各種養成所別設立時期

主な養成所についての設立時期は表—3に示したが，高等看護学院（高等看護学院（3年課程)，以下高等看護学院）は，昭和20年代と昭和

表—1　看護関係大学，短大，各種養成所の地域別回収率　　(（　）内は回収率)

	北海道，東北		関　東		北陸，東海		近　畿		中国，四国 九州，沖縄		計	
	発送数	回収数	発送数	回収数	発送数	回収数	発送数	回収数	発送数	回収数	発送数	回収数
大　学	1	1	2	0	1	1	0	0	3	0	7	2 (29)
短　大（3年）	2	2	5	3	5	3	2	2	2	2	16	12 (75)
高等看護学院（3年課程）	48	29 (60)	66	37 (56)	54	30 (56)	41	22 (54)	69	50 (74)	278	169 (61) (不明1)
短　大（2年）	0	0	2	1	2	2	2	0	0	0	6	3
高等看護学院（進学コース2年）	18	11 (61)	33	13 (39)	27	15 (56)	23	13 (57)	39	24 (62)	140	76 (54)
高等看護学院（進学コース3年）	27	12 (44)	66	31 (47)	36	12 (33)	25	12 (48)	36	17 (47)	190	84 (44)
高校専攻科（2年）	4	2	0	0	2	1	2	1	10	6	18	10 (56)
高校衛生看護科	20	8 (40)	12	3 (25)	27	14 (52)	8	3 (38)	56	23 (41)	123	51 (42)
准看養成所	80	31 (38)	93	31 (33)	83	37 (45)	49	15 (31)	116	46 (40)	421	162 (38) (不明2)
保健婦養成所	8	3 (38)	5	4 (80)	6	2 (33)	6	5 (83)	9	8 (89)	34	22 (65)
助産婦養成所	5	5 (100)	9	7 (78)	6	4 (67)	7	3 (43)	7	7 (100)	34	26 (77)
保健婦助産婦合同校	3	3	3	2	2	1	1	1	9	7	18	14 (78)
計											1,285	631 (49)

表—2　看護婦3年課程，2年課程，准看養成所の設置主体別分布

		計	国	都道府県市町村	日赤その他	医師会	その他
看護婦3年課程（短大を含む）	総　数	329	119	107	46	57	
	回収数	181	64	55	26	36	
看護婦2年課程（短大・高専を含む）	総　数	389	37	131	14	64	143
	回収数	173	23	71	10	17	51
准看養成所**	総　数	626	51	95	34	309	137
	回収数	160	20	35	13	68	24

** 有意

表—3　各種養成所別設立時期　　(( ) 内は百分率)

	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	准看護養成所	高校衛生看護科	保健婦養成所	助産婦養成所
戦前	5 (3)	0	0	2 (1)	0	0	1 (4)
昭和20～24年	33 (20)	0	0	0	0	0	1 (4)
25～29	41 (25)	0	1 (1)	56 (35)	0	11 (50)	5 (19)
30～34	5 (3)	6 (8)	0	24 (15)	0	3 (14)	6 (23)
35～39	18 (11)	14 (19)	8 (10)	27 (17)	0	1 (5)	4 (15)
40～44	16 (10)	17 (23)	16 (19)	29 (18)	28 (55)	1 (5)	3 (12)
45～	49 (29)	37 (50)	59 (70)	22 (14)	23 (45)	6 (27)	6 (23)
不明	1	1					
計	168	75	84	160	51	22	26

表—4　学生寮の有無　　(百分率)

	有	学校数
大学	100.0	2
短大（2年）	66.7	3
〃（3年）	50.0	12
保健婦養成所	77.3	22
助産婦養成所	84.6	26
保・助・合同校	91.2	14
進学コース（2年）	80.3	76
進学コース（3年）	27.4	84
高校専攻科	50.0	10
高校衛生看護科	37.3	51
准看養成所	47.5	160

45年以降の開校が目立ち，准看養成所は，昭和20年代後半に急増し，その後増加の程度は一定している。

進学コース（高等看護学院(進学コース)，以下進学コース）は半数以上が昭和40年代後半である。保健婦養成所は昭和20年代後半が目立ち，助産婦養成所は当然保健婦養成所より歴史は古く，また目立った年代はない。これらの傾向から，緩慢ではあるが需要が反映し適応しようという傾向がみられる。

(2)　学生寮の有無

進学コース（3年），高校衛生看護科，准看護養成所は学生寮をもっている割合が少ないが，自宅通学，勤務先寄留のためではなかろうか。

寮があるとすると，学生総定員に対する寮の定員の割合を示したのが表—5で，助産婦養成所，進学コース，高等看護学院，准看養成所の割合は高い。

学生寮の食費負担は，学校の性格によってかなり異なっている。助産婦養成所，高等看護学院，准看養成所の無料の割合の高さが目立っている。その他の養成所でも実費全額負担の学校の割合はあまり高くない。

准看養成所の場合は，国公立の学校はそれ以外の学校に比較し，無料，一部負担の割合が高い。

食費以外の寮費徴収は，助産婦養成所，准看養成所を除き，徴収する学校の割合は高い。その金額についての正確な表を作ることはできないが，高等看護学院，進学コース（2年），准看養成所については60～80％の学校が500円未満徴収している。

(3)　学生募集方法

都道府県一括募集の割合の高い学校は，保健

表—5　学生総定員に対する寮定員の割合　（百分率）

	平　均（%）	～49%	50～99	100～	学　校　数
短　大（2年）	35	100.0			2
短　大（3年）	63	66.7		33.3	6
保健婦養成所	56	58.8	23.5	17.6	17
助産婦養成所	87	14.3	14.3	71.4	21
保・助合同校	52	38.5	53.8	7.7	13
高等看護学院	87	6.6	35.8	57.6	151
進学コース（2年）	80	13.6	33.9	52.5	59
進学コース（3年）	74	27.3	22.7	50.0	23
額校専攻科	3	100.0			4
高校衛生看護科	21	84.6	7.7	7.7	13
准看養成所	81	17.9	23.9	58.2	67

注）平均百分率は学生数を考慮していない

表—6　各種養成所別食費負担　（百分率）

	無　料	一部負担	材料費全額負担	実費全額負担	学　校　数
短　大（2年）		50.0		50.0	2
短　大（3年）		33.3	33.3	33.3	6
保健婦養成所	14.3	21.4	42.9	21.4	14
助産婦養成所	66.7		23.8	9.5	21
保・助・合同校			63.6	36.4	11
高等看護学院	51.7	13.2	23.8	11.3	151
進学コース（2年）	28.8	18.6	28.8	23.7	59
進学コース（3年）	3.3	9.8	70.5	16.4	6
高校専攻科			66.7	33.3	13
高校衛生看護科	5.3		26.3	68.4	19
准看養成所	41.7	29.2	13.9	15.3	72

表—7　食費以外寮費徴収の有無　（百分率）

	あ　り	学校数
大　学	50.0	2
短　大（2年）	100.0	2
短　大（3年）	100.0	6
保健婦養成所	68.8	16
助産婦養成所	45.5	22
保・助合同校	76.9	13
高等看護学院	60.1	148
進学コース（2年）	73.3	60
進学コース（3年）	81.8	22
高校専攻科	75.0	4
高校衛生看護科	88.9	18
准看養成所	30.6	72

婦養成所，高校衛生看護科であり，病院・診療所に依存する割合の高いのは勤労学生を主体とした学校，すなわち進学コース，准看養成所である。また，卒業生，在校生の出身校への働きかけ，学校が所在する都道府県内の中・高校への働きかけ，学校案内書に紹介などは程度の差はあるが共通している。

推薦入学制度は大学，短大（2年）を除くとほとんどの学校が用いていない。

(4)　応募学生のルート

それぞれの学校に特色があり，大体学生の募

表—8 (1) 最重要視している学生募集方法 (百分率)

	保健婦養成所	助産婦養成所	高等看護学院	進学コース(2年)	進学コース(3年)	高校衛生看護科	准看養成所
学校数	10	15	128	52	59	29	110
卒業生，在校生の出身校に働きかける	20.0	40.0	21.1	11.5	8.5	24.1	22.7
都道府県内の学校に働きかける	10.0	26.7	49.2	19.2	13.6	31.0	30.0
進学雑誌に募集広告掲載	10.0		3.1	1.9	3.4		
看護関係雑誌に募集広告		6.7	0.8	15.4	23.7		
はり紙広告			1.6	1.9	1.7		
学校案内書にて学校紹介	30.0	13.3	14.8	19.2	8.5	6.9	11.9
病院・診療所に働きかける			0.8	7.7	23.7		4.5
病院・診療所の方で高校に入学できることを付して募集			0.8	3.8	3.4		22.7
都道府県にて一括募集	20.0		1.6	3.8		31.0	0.9
特に手段を講じない		6.7	1.6	3.8	3.4		
その他	10.0	6.7	4.7	11.5	10.2	6.9	7.3
平均募集方法数	2.2 (22)	2.4 (26)	2.9(167)	2.8 (76)	3.3 (83)	1.9 (50)	2.7(160)

注) 平均募集方法中の ( ) は学校数

表—8 (2) 推薦入学制度の有無 (百分率)

	大学	短大(2年)	短大(3年)	保健婦養成所	助産婦養成所	保・助合同校	高等看護学院	進学コース(2年)	進学コース(3年)	高校専攻科	高校衛生看護科	准看養成所
学校数	2	3	12	22	26	14	166	73	83	10	50	156
はい	50.0	100.0	25.0	0	0	7.1	6.0	5.5	2.4	20.0	10.0	10.9
いいえ	50.0	0	75.0	100.0	100.0	92.9	94.0	94.5	97.6	80.0	90.0	89.1

集方法と対応している。共通しているのは，学校案内，募集広告，出身校の先輩，出身校の先生の紹介である。

(5) 入学者選考方法

ほとんどの学校が筆記試験を最も重視し，面接試験，内申書等2，3の方法を加えている学校が多く，いずれの段階での進学にも共通している。

(6) 入学者決定

最も影響力をもつ者は，半数以上学校長であり，次いで看護職員で両者合計すると80～90%であり，それに1，2の関係者が加わって決定していると思われる。

3—3 各種養成所学生の入学時および生活状況

(1) 入学時の年齢分布

受験資格によって各種養成所の入学者の年齢分布が異なるのは当然で，またその資格に相当する年齢分布を示している。

各才別年齢分布は，将来予測，すなわち就業

表—9　主な応募学生のルート　（百分率）

	保健婦養成所	助産婦養成所	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	高校衛生看護科	准看養成所
学校数	19	21	135	65	52	33	166
出身校に先輩がいる	10.5	42.9	14.1	6.2	21.2	3.0	1.7
出身校の先生の紹介		4.8	25.2	6.2	9.6	57.6	46.6
学校関係者の知入の紹介		4.8	2.2	1.5			3.4
病院・診療所の紹介		4.8	1.5	23.1	11.5		31.9
勤務先・自宅に近い	15.8	9.5	5.9	12.3	15.4	3.0	0.9
勤務病院の附属			1.5	16.9	3.8		4.3
出身校に併設	15.8	4.8		3.1	1.9		0.9
学校案内募集広告	47.4	9.5	35.6	26.2	28.8	12.1	6.0
学校の評判	5.3	9.5	5.9	1.5	5.8	12.1	1.7
その他	5.3	4.8	6.7	1.5	1.9	12.1	2.6
なんともいえない		4.8	1.5	1.5			
平均ルート数	2.9 (22)	3.1 (26)	2.9(161)	2.9 (82)	2.9 (74)	2.4 (48)	2.8(153)

注）平均ルート数（　）は学校数

表—10　最も重視している入学者選考方法　（百分率）

	保健婦養成所	助産婦養成所	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	高校衛生看護科	准看養成所
学校数	17	22	142	65	71	30	126
身体検査		4.5	4.2	3.1			4.8
内申書		4.5	2.1	4.6		23.3	3.2
性格検査			1.4	1.5			1.6
筆記試験	100.0	86.4	84.5	78.5	90.1	76.7	69.0
面接試験		4.5	7.7	12.3	9.9		18.3
推せん							1.6
その他							1.6
平均選考方法数	3.8 (22)	3.9 (26)	4.0(167)	3.7 (75)	3.7 (82)	2.6 (50)	3.6(159)

注）平均選考方法，（　）は学校数

後の減少率の推定，年齢階級別人数の将来予測に不可欠な資料である。

(2)　入学者の学歴

進学のコースの2年制，3年制について中学卒の割合はそれぞれ9.3%，14.8%であり，高校衛生看護科卒の割合はそれぞれ33.6%，19.4%である。

そこで高校衛生看護科，准看養成所の中で中学卒，高校卒の学生がそれぞれ進学コースに進学する割合を推定してみると次のようになる。

進学コースに入学する学生の約25%が高校衛生看護科の卒業生である。進学コース1974年度

表—11　入学者決定に最も大きな影響力をもつ人　（百分率），（（　）内は学校数）

	保健婦養成所	助産婦養成所	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	高校衛生看護科	准看養成所
学校数	19	22	142	59	71	24	124
1 学校長	57.9	50.0	50.0	61.0	59.2	79.2	62.9
2 看護職員	36.8	36.4	42.3	33.9	26.8	8.3	14.5
3 婦長				1.7	1.4		
4 病院長			1.4	1.7	2.8		3.2
5 医師会関係者					4.2		14.5
6 3,4以外の病院関係者					1.4		4.0
7 学校事務長			0.7				
8 その他	5.3	13.6	5.6	1.7	4.2	12.5	0.8
影響力をもつ人々	2.9 (22)	3.4 (26)	3.7(167)	3.4 (75)	3.6 (82)	2.0 (49)	3.2(158)

表—12　入学者の年齢分布　（百分率）

	大学	短大（2年）	短大（3年）	保健婦養成所	助産婦養成所	保・助合同校	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	准看養成所
総数	61	614	250	683	491	317	5,746	2,616	2,882	5,951
15才	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31.05
16	0	0	0	0	0	0	0.12	0	0	10.59
17	0	0	0	0	0	0	1.95	0.83	0.62	4.10
18	93.44	68.89	47.60	0	0	0	72.57	23.97	14.54	23.44
19	4.92	11.40	20.40	0	0	0	18.99	16.17	9.30	10.80
20	1.64	16.78	10.40	7.76	6.11	6.62	3.43	23.13	21.27	3.86
21, 22	0	1.30	14.00	72.91	59.88	72.24	0.99	21.33	26.44	4.05
23, 24	0	0,65	5.60	14.79	21.59	12.30	0.52	7.15	10.76	3.13
25～	0	0.98	2.00	4.54	12.42	8.83	1.43	7.87	17.57	8.97

表—13　入学者の学歴　（百分率）

	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	准看養成所
中学卒	1.1	9.3	14.8	55.0
高校卒	98.2	55.7	65.4	44.2
高校衛生看護科	0.6	33.6	19.4	0
短大卒	0.1	0.2	0.3	0.2
大学卒	0.1	0.1	0.0	0.2
その他	0.0	1.1	0.1	0.3
入学者数	5688	2629	3240	5798

表—14　准看養成所地域別中学卒の割合　（百分率）

	北海道東北	関東	北陸東海	近畿	中国,四国九州,沖縄
中学卒	66	45	51	56	60
高校卒	33	55	49	42	38

1年生11,933名（短大，高校専攻科を除く）中，高校衛生看護科卒は25%として約2,983名である。従って，高校衛生看護科3年生6,183名に対し48%である。高校衛生看護科卒業生は，短大や高校専攻科に進学する人が多いので，これらを含めると進学者の比率はもと高くなる。

中学卒学生が准看養成所在学中の定時制高校進学，卒業後の高校進学はないという条件で考えると，准看養成所2年在学者22,499名中中学卒

は約55%として12,374名である。また進学コースに入学する学生の約2%が中学卒であるとして1,484名。従って，中学卒准看養成所卒業者の約12%が進学エースに入学することになる。

高校卒准看養成所入学者は，2年生22,499名中約45%で10,125名である。進学コース入学者は高校卒(衛生看護科卒を除く)約61%で11,933名中7,279名。従って，高校卒准看養成所卒業生の約72%が進学コースに入学すると推定される。

准看養成所入学者の中で約55%が中学卒であったが，地域別にみると，北海道，東北地方，次いで中国・四国・九州地方で中学卒の割合は高い。

表—15　保健婦，助産婦学校入学者の専門学歴　(百分率)

	保健婦養成所	助産婦養成所	保健婦助産婦合同校
進学コース	12.7	27.0	23.3
高等看護学院	80.6	64.3	69.1
短大	6.6	8.8	6.6
大学	0	0	0.9
その他	0.2	0	0
総数	607	512	317

保健婦，助産婦養成所入学者の学歴では，高等看護学院出身者が65～80%を占め，特に保健婦養成所でいちじるしい。

(3)　出身地別各種養成所所入学者分布

高等看護学院，進学コース，准看養成所ともに九州地方出身者が最も多く，次いで東北地方出身者である。両養成所ともに九州・東北出身者で約40%を占めている。看護職員の大きな供給地域といえる。

関東地方の高等看護学院入学者の中で，東北地方出身者が約27%，九州地方出身者が約12%を占める。近畿地方の高等看護学院入学者の中では九州地方出身者が約22%を占める。

准看養成所では，関東地方養成所入学者の中約27%が東北地方出身者であり，約10%が九州地方出身者である。近畿地方養成所入学者の中で約17%が九州地方出身者である。

(4)　入学者の就職経験

入学者の学歴についての分析から次のことが

表—16　出身地別各種養成所入学者分布　(百分率)

	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	留学生	総数
高看護学院	8.2	14.7	12.2	6.6	8.7	7.0	13.8	4.7	23.8	0.2		100(5,745)
進学コース(2年)	4.9	18.9	14.4	8.5	10.8	9.6	7.8	9.2	13.8	0.8	1.5	100(2.379)
進学コース(3年)	7.5	16.7	14.7	5.8	9.6	10.0	8.5	3.4	21.6	1.9	0.2	100(2,761)
准看養成所	7.1	14.5	11.9	7.9	10.0	6.3	5.5	5.1	27.1	4.6		100(5,595)

表—17　各種養成所入学者の就職経験　(百分率)

	看護職経験あり				なし		総数
	～2年	2年～5年	5～10年	10年以上	その他の就職	全くなし	
高等看護学院	0.6	1.1	1.0	0.6	2.9	93.7	100(3,344)
進学コース(2年)	20.9	24.0	5.3	1.4	3.5	44.9	100(2,433)
進学コース(3年)	16.1	27.3	13.3	5.0	7.0	31.3	100(2,760)
准看養成所	11.6	4.0	1.6	0.9	1.6	65.3	10012,240)

判明した。准看養成所入学者の半数弱が高校卒で，中学卒よりも高校卒の方が進学する比率が高い。衛看卒も含めると，進学コース入学者の8～9割が高卒者によって占められている（2年制で89%，3年制で85%）。

高卒者では准看護婦としての経験がなくても，進学コースに入学することができるので，准看養成所，高校衛生看護科卒業後，ただちに進学するものがふえている。進学コース入学者で看護職（准看護婦）の経験を有しない者は，2年制で48%，3年制で38%である。准看養成所入学前，あるいは就学中に看護助手として勤務していたのを看護職経験に入れているものもある様子なので，実際には准看護婦の経験を有しない者の比率はもっと高いと思われる。（進学コースの教育は，基礎学歴も異なり，准看護婦経験のある者とない者とを一緒にした教育となり，この点での混乱が想定される。高卒者にとって，はじめから高等看護学院に入学することに比べれば，准看養成所プラス進学コースのだき合せ教育にはムダが多いように思われるか，このコースをたどる人が多いのはなぜかを分析してみる必要があろう）。

なお准看養成所では，看護職以外の就職経験者の割合が他の学校に比べて高い。ちなみに，入学者中20才以上の者の比率は，高等者で学院が6%であるのに対して，准看養成所は，20%である。

准看養成所が，職業転換し，改めて看護職になろうとする者，年令の高い者をうけ入れる窓口となっているといえよう。

(5) 学生の勤務状態と月間経費

表—18 勤労学生を主体とした養成所の割合と月間経費 (百分率)

	学校数	勤労学生主体	そうでない
大校	2		100.0
短大（2年）	3		100.0
短大（3年）	12		100.0
保健婦養成所	22		100.0
助産婦養成所	26		100.0
保健婦・助産婦合同校	14		100.0
高等看護学院	168	4.8	95.2
進学コース（2年）	75	8.0	92.0
進学コース（3年）	84	95.3	4.7
高校専攻科	10		100.0
高校衛生看護	49	10.2	89.8
准看養成所	153	60.1	39.9

表—19 医療施設に勤務する学生の割合

	学校数	卒業生	医療施設勤務者	勤務者中卒業時移動
進学コース（3年）	44	1,150	71.9%	26.2%
准看養成所	87	2,922	89.4	9.5

進学コース（3年）はほとんどが勤労学生を主体とした養成所であり，准看養成所は約60%である。地域別には，関東，中国・四国・九州地方に勤労学生の主体の養成所がそれぞれ約96%，76%と高い。

また准看養成所について，設置主体別に，すなわち国公立とそれ以外とを大雑把に区分すると，勤労学生主体の養成所は，国公立約25%（52校中），その他79%（101校中）と差がみられる。

進学コース（3年）では，設置主体別の差はみられない。

勤労学生を主体とした学校を，昭和50年度に卒業した学生で卒業年次に医療施設に勤務していた者は，准看養成所89%，進学コース（3年）72%とかなり高い割合を示している。

表—20　通学のときの月間経費　（百分率）

	学校数	～10,000	10,000～20,000	20,000～30,000	30,000～50,000	50,000～80,000	80,000～
大学	1						100.0
短大(2年)	3	33.3	33.3	33.3			
短大(3年)	9	33.3	33.3	11.1	22.2		
保健婦養成所	19	26.3	26.3	47.4			
助産婦養成所	10	10.0	40.0	30.0	10.0	10.0	
保健婦・助産婦合同校	9	22.2	44.4	22.2		11.1	
高等看護学院	76	43.4	46.1	6.6	3.9		
進学コース(2年)	46	26.1	39.1	26.1	8.7		
進学コース(3年)	1		100.0				
高校専攻科	9	22.2	44.4	22.2	11.1		
高校衛生看護科	31	61.3	32.3	6.5			
准看養成所	21	71.4	19.0	4.8	4.8		

表—21　入寮した時の月間経費　（百分率）

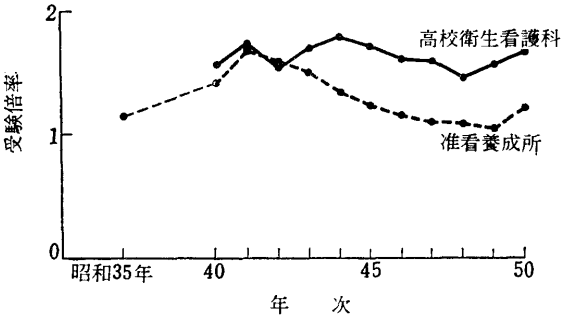
	学校数	～10,000	10,000～20,000	20,000～30,000	30,000～50,000	50,000～80,000	80,000～
大学	1						100.0
短大(2年)	2		50.0	50.0			
短大(3年)	6		16.7	33.3	16.7	33.3	
保健婦養成所	15		20.0	40.0	20.0		
助産婦養成所	19	5.3	42.1	26.3	21.1	5.3	
保健婦・助産婦合同校	11	9.1	18.2	45.5	27.3		
高等看護学院	126	17.5	51.6	23.0	6.3	1.6	
進学コース(2年)	57	14.0	28.1	43.9	14.0		
進学コース(3年)	2			100.0			
高校専攻科	5		20.0	60.0	20.0		
高校衛生看護科	17	5.9	11.8	58.8	23.5		
准看養成所	48	58.3	31.3	8.3	2.1		

表—22　下宿した時の月間経費　（百分率）

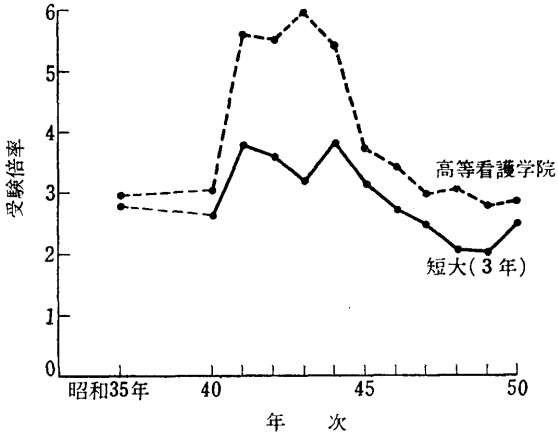
	学校数	～10,000	10,000～20,000	20,000～30,000	30,000～50,000	50,000～80,000	80,000～
大学	1						100.0
短大(2年)	3		33.3		66.7		
短大(3年)	8		12.5		62.5	25.0	
保健婦養成所	19			15.8	63.2	21.1	
助産婦養成所	12		8.3	25.0	50.0	16.7	
保健婦・助産婦合同校	10		10.0	20.0	40.0	20.0	10.0
高等看護学院	59	5.1	11.9	23.7	50.8	8.5	
進学コース(2年)	42	7.1	2.4	14.3	59.5	15.7	
進学コース(3年)	1				100.0		
高校専攻科	7			28.6	57.1		14.3
高校衛生看護科	20		5.0	35.0	60.0		
准看養成所	5	20.0		40.0	20.0	20.0	

表—23　養成所側の考えている最多入学拒否理由　　（百分率）

	高等看護学院	進学コース（2年）	進学コース（3年）	准看養成所
看護関係以外の学校入学	29.9	3.0	4.8	54.6
他の看護関係学校入学	68.8	89.6	79.4	24.7
経済的理由		4.5	3.2	2.1
自分の意志に反し受験				4.1
その他	1.3	3.0	12.7	14.4
学校数	154	67	63	97



図—1　受験倍率の動向



図—2　受験倍率の動向

医療施設勤務者が卒業と同時に勤務先を変更する者は，進学コース（3年）卒業者は准看養成所に比べてその割合は高い。

設置主体別には両養成所とも大きな差はない。地方別にみると，近畿地方の両養成所ともに勤務先変更の割合は少ない。また，進学コース（3年）では，中国・四国・九州地方の養成所の勤務学生の勤務先変更の割合が高い。

授業料などを含め，学生の生活に要する1カ月の経費は，1つは通学，入寮，下宿などの生活様式によって異なり，他方学校の性格，すなわち勤労学生を主体としているかどうかにより異なる。また学校の受験資格，すなわち学生の年齢によって異なると思われる。

また，各養成所の地域構成はかなり異なっていることが予想される。同生活様式，同種の養成所であっても，地域による格差はいちじるしいと思われるが，さらに地域による分類は困難である。以上の理由で養成所間の比較はできない。

従って，大体の傾向をみると，通学の場合は，10,000～20,000円，入寮の場合は，20,000～30,000円，下宿の場合は，30,000～50,000円の必要経費が2，3の例外を除いて中心である。

(6)　養成所側の考えている最多入学拒否理由，入学を許可されていながら，入学を拒否する者の動向は，経済の動向によっても左右されるし，本質的に看護職への考え方の変化にもよるのであろう。

進学コースの場合は，看護婦としての資格を有するためか，入学拒否といってもほとんどが他の看護関係学校に入学していると思われる

表—24　年次別，養成所入学定員に対する受験者数の倍率　　（（　）は校数）

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学	2.82(2)	2.65(3)	3.78(4)	3.62(5)	1.8 (1)	1.55(1)	1.5 (1)	1.15(1)	1.55(1)	1.8 (1)	3.15(1)	2.50(1)
短大（3年）					2.32(1)	1.74(2)	2.43(2)	1.91(2)	1.97(2)	2.30(2)	2.03(3)	2.70(3)
短大（2年）					3.23(6)	3.86(6)	3.15(6)	2.76(7)	2.50(8)	2.09(9)	2.06(11)	2.51(12)
高等看護学院	2.96(62)	3.07(84)	5.61(90)	5.52(93)	5.96(101)	5.46(107)	3.72(116)	3.44(123)	2.99(131)	3.08(145)	2.78(156)	2.85(155)
進学コース(2年)	2.17(8)	1.85(18)	1.85(17)	2.16(12)	2.51(30)	2.73(37)	2.58(47)	2.52(57)	2.52(61)	2.40(67)	2.28(74)	2.19(74)
進学コース(3年)		0.79(5)	1.35(7)	1.29(11)	1.58(14)	1.72(26)	1.70(26)	1.59(42)	1.67(50)	1.64(64)	1.57(79)	1.70(80)
高校専攻科					1.12(2)	1.22(3)	0.86(4)	1.22(3)	1.28(8)	1.22(9)	1.38(10)	1.43(10)
高校衛生看護科		1.58(6)	1.76(11)	1.58(16)	1.69(19)	1.79(23)	1.72(24)	1.62(26)	1.61(32)	1.45(35)	1.57(43)	1.67(43)
准看養成所	1.17(47)	1.43(89)	1.69(99)	1.59(102)	1.51(11)	1.36(118)	1.25(124)	1.17(132)	1.13(139)	1.09(144)	1.04(149)	1.22(147)
保健婦養成所	1.21(6)	1.80(12)	1.59(15)	1.74(15)	2.01(15)	1.93(17)	2.28(18)	2.59(20)	3.30(20)	3.46(20)	3.45(22)	3.83(22)
助産婦養成所	0.92(11)	1.50(17)	1.97(19)	2.04(19)	2.38(19)	2.19(20)	1.94(10)	2.08(20)	2.30(20)	2.34(22)	2.73(24)	2.65(25)
保健婦・助産婦同合校		0.75(1)	0.92(2)	0.73(3)	1.18(3)	1.85(3)	1.62(8)	1.40(12)	1.61(12)	2.07(12)	2.24(13)	2.32(13)

し，高等看護学院，准看養成所では看護関係以外の学校に入学する割合が高いと思われる。特に，准看養成所ではその割合が高いと思われ，入学拒否者は第２志望として看護職を考えているのであろう。

3—4　各種養成所の入学状況

(1)　入学定員に対する受験者数の倍率

保健婦，助産婦については，受験倍率は徐々に増加しているが，短大，高等看護学院，准看養成所は，昭和41～44年の間に倍率のピークを作り，その後徐々に低くなってきている。

昭和50年に，准看養成所，高校衛生看護料，短大など倍率がが高くなっているが，経済不況のためかどうか，昭和51年度の指標をみればもう少し明らかになるであろう。

高校衛生看護科は倍率の低下は少なく，高等看護学院の低下はいちじるしい。しかし，短大の倍率より高等看護学院の倍率は常に高い。

高等看護学院の受験倍率を地域的にみると，北海道・東北，四国・九州地方は，関東，北陸・東海，近畿地方の受験倍率に比べてその低下の程度は少ない。

さらに，各学校の受験倍率の度数分布表をみると，学校による格差のいちじるしいことがわかる。また，受験倍率の最も低下した昭和49年度において，定員に満たない学校数は，准看養成所約51％，短大（３年）約27％，高等看護学院約６％，高校衛生看護科約４％である。

高校進学率90％からみて，准看養成所の厳しさは理解できるが，調査学校数が少ないとはいえ短大（３年）の27％は意外である。

入学試験に応募する者は数校に入学願書を提

表—25　地域別，年次別高等看護学院定員に対する受験者数の倍率　　(( ) は校数)

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
北海道・東北	3.0(9)	2.9(16)	5.1(16)	4.4(16)	4.7(18)	5.1(20)	3.8(21)	4.1(21)	3.3(22)	3.3(27)	3.3(28)	3.5(27)
関東	2.7(13)	2.3(17)	4.8(18)	4.9(18)	5.5(18)	4.7(19)	3.1(23)	2.8(26)	2.4(28)	2.4(30)	2.2(34)	2.4(33)
北陸・東海	2.8(9)	2.3(12)	4.8(13)	4.4(13)	5.1(15)	5.0(16)	3.2(19)	2.4(22)	2.3(25)	2.6(27)	2.2(29)	2.3(29)
近畿	2.8(6)	3.5(9)	7.2(11)	5.8(11)	5.1(12)	5.7(12)	3.5(13)	3.6(13)	2.8(14)	2.7(15)	2.3(17)	2.5(17)
中国	3.0(11)	4.0(13)	6.1(13)	6.3(15)	6.5(15)	5.1(16)	4.3(16)	3.8(16)	3.7(16)	3.6(19)	3.5(19)	3.0(20)
四国・九州	3.3(14)	3.7(17)	6.1(18)	6.4(19)	7.8(22)	6.9(23)	4.5(23)	4.4(24)	4.0(25)	4.1(26)	3.5(28)	3.8(28)

表—26 (1)　入学定員に対する受験者数倍率の度数分布

	短大（3年）											
倍率	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0—1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.125	0.222	0.273	0.083
1.0—2.0	0	0	0	0.200	0.167	0	0	0.143	0.125	0.333	0.364	0.333
2.0—3.0	0.500	1.00	0.250	0	0.167	0.167	0.667	0.429	0.375	0.111	0	0.167
3.0—4.0	0.500	0	0.500	0.200	0.333	0.333	0.167	0.286	0.250	0.222	0.091	0.083
4.0—5.0	0	0	0	0.200	0.167	0.500	0.167	0	0	0	0.182	0.167
5.0—6.0	0	0	0.250	0.400	0	0	0	0.143	0.125	0	0	0.083
6.0—7.0	0	0	0	0	0.167	0	0	0	0	0.111	0.091	0.083
7.0—8.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.0—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学校数	2	3	4	5	6	6	6	7	8	9	11	12

表—26 (2) 入学定員に対する受験者数倍率の度数分布

高等看護学院

倍率	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0—1.0	0.016	0.035	0.022	0.031	0.038	0.036	0.034	0.040	0.059	0.048	0.057	0.057
1.0—2.0	0.190	0.233	0.022	0.042	0.019	0.045	0.185	0.135	0.185	0.218	0.278	0.258
2.0—3.0	0.333	0.372	0.076	0.063	0.124	0.118	0.160	0.246	0.341	0.265	0.285	0.264
3.0—4.0	0.222	0.186	0.163	0.240	0.162	0.173	0.210	0.254	0.193	0.252	0.215	0.220
4.0—5.0	0.143	0.047	0.152	0.177	0.181	0.100	0.235	0.175	0.104	0.116	0.063	0.113
5.0—6.0	0.079	0.105	0.163	0.094	0.114	0.164	0.067	0.087	0.067	0.048	0.057	0.038
6.0—7.0	0.016	0	0.130	0.104	0.048	0.145	0.059	0.024	0.030	0.014	0.019	0.038
7.0—8.0	0	0.012	0.120	0.083	0.105	0.064	0.017	0.016	0.022	0.020	0.013	0
8.0—	0	0.012	0.152	0.167	0.210	0.155	0.034	0.024	0	0.020	0.013	0.013
学校数	63	86	92	96	105	110	119	126	135	147	158	159

表—26 (3) 入学定員に対する受験者数倍率の度数分布

高校衛生看護科

倍率	昭和40年	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0—0.5	0	0.083	0.059	0.050	0.042	0.040	0.071	0.059	0.054	0.044	0.087
0.5—1.0	0	0	0.176	0.050	0	0.040	0.036	0.059	0.108	0.022	0.043
1.0—1.5	0.333	0.333	0.353	0.350	0.333	0.440	0.429	0.382	0.486	0.511	0.457
1.5—2.0	0.667	0.417	0.176	0.300	0.333	0.200	0.286	0.382	0.216	0.289	0.174
2.0—2.5	0	0	0.118	0.150	0.125	0.120	0.071	0.059	0.081	0.089	0.130
2.5—3.0	0	0.083	0.059	0.050	0.125	0.040	0.071	0.029	0.027	0.022	0.087
3.0—3.5	0	0.083	0.059	0.050	0.042	0.120	0.036	0	0	0	0.022
3.5—4.0	0		0	0	0	0	0	0	0.027	0.022	0
4.0—	0		0	0	0	0	0	0.029	0	0	0
学校数	6	12	17	20	24	25	28	34	37	45	46

表—26 (4)入学定員に対する受験者数倍率の度数分布

倍率	准看養成所 昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0—0.5	0.237	0.112	0.100	0.086	0.091	0.094	0.097	0.120	0.069	0.099	0.096	0.106
0.5—1.0	0.237	0.122	0.091	0.129	0.140	0.188	0.201	0.210	0.366	0.344	0.417	0.171
1.0—1.5	0.136	0.378	0.291	0.336	0.347	0.414	0.396	0.415	0.324	0.371	0.308	0.475
1.5—2.0	0.136	0.173	0.245	0.198	0.174	0.188	0.216	0.155	0.179	0.126	0.141	0.203
2.0—2.5	0.034	0.061	0.127	0.121	0.116	0.047	0.060	0.077	0.048	0.053	0.032	0.038
2.5—3.0	0.034	0.082	0.036	0.034	0.083	0.039	0.007	0.014	0.007	0.007	0.006	0.006
3.0—3.5	0.034	0.010	0.045	0.034	0.025	0.023	0.022	0	0	0	0	0
3.5—4.0	0.068	0.031	0.018	0.017	0.008	0.008	0	0.007	0	0	0	0
4.0—	0.085	0.031	0.045	0.034	0.017	0	0	0	0.007	0	0	0
学校数	59	98	110	116	121	128	134	142	145	151	156	151

表—27 年次別，養成所別応募者数に対する受験者数の割合 ( ) 校数)

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学					0.71(1)	0.70(1)	0.75(1)	0.66(1)	0.74(1)	0.80(1)	0.80(1)	0.71(1)
短大(3年)	0.95(2)	0.90(3)	0.77(4)	0.84(5)	0.80(6)	0.76(6)	0.75(6)	0.80(7)	0.78(8)	0.79(9)	0.77(11)	0.78(12)
短大(2年)					0.84(1)	0.90(2)	0.87(2)	0.85(2)	0.87(2)	0.88(2)	0.88(3)	0.90(3)
高等看護学院	0.87(62)	0.86(82)	0.88(90)	0.87(93)	0.87(99)	0.88(106)	0.86(113)	0.87(120)	0.87(129)	0.88(145)	0.88(154)	0.88(155)
進学コース(2年)	0.92(8)	0.90(18)	0.88(17)	0.88(12)	0.89(30)	0.87(37)	0.88(47)	0.88(57)	0.89(61)	0.89(69)	0.89(74)	0.89(74)
進学コース(3年)		0.83(5)	0.93(6)	0.90(10)	0.95(14)	0.93(20)	0.92(26)	0.94(42)	0.91(50)	0.91(64)	0.92(79)	0.90(80)
高校専攻科					1.00(2)	1.00(3)	0.91(4)	0.95(5)	0.97(8)	0.96(9)	0.95(10)	0.94(10)
高校衛生看護科		0.99(6)	0.99(11)	0.98(16)	0.99(19)	0.99(23)	0.98(24)	0.99(26)	0.99(32)	0.99(35)	0.96(43)	0.98(43)
准看養成所	0.93(44)	0.96(86)	0.95(94)	0.95(101)	0.95(107)	0.95(113)	0.96(120)	0.96(121)	0.96(134)	0.96(139)	0.96(144)	0.95(143)
保健婦養成所	0.95(6)	0.89(12)	0.89(15)	0.90(15)	0.90(15)	0.81(17)	0.81(18)	0.84(20)	0.85(20)	0.83(20)	0.86(22)	0.88(22)
助産婦養成所	0.91(11)	0.93(17)	0.88(19)	0.83(19)	0.87(19)	0.83(20)	0.82(20)	0.83(20)	0.85(20)	0.87(22)	0.90(24)	0.88(25)
保・助 合同校		0.94(1)	0.90(2)	0.73(3)	0.88(3)	0.86(3)	0.82(8)	0.91(12)	0.82(12)	0.87(12)	0.89(13)	0.84(13)

表—28　年次別，養成所別入学定員に対する入学許可数の倍率　　(( ) は校数)

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学					0.65(2)	0.62(2)	0 45(5)	0.67(2)	0.42(2)	0.90(2)	0.83(2)	1.05(2)
短大(3年)	1.67(1)	1.17(3)	1.09(4)	1.10(5)	1.06(6)	1.18(6)	1.14(6)	1.18(7)	1.10(8)	1.00(9)	0.97(11)	1.10(12)
短大(2年)					1.15(1)	1.04(2)	1.14(2)	1.15(2)	1.15(2)	1.16(2)	1.02(3)	1.38(3)
高等看護学院	0.98(62)	1.14(86)	1.14(92)	1.15(96)	1.12(105)	1.15(110)	1.17(118)	1.16(123)	1.15(133)	1.19(145)	1.18(156)	1.18(156)
進学コース(2年)	1.02(8)	0.95(18)	0.97(17)	0.15(12)	0.97(30)	1.03(37)	1.02(47)	1.04(57)	1.06(61)	1.06(67)	1.10(74)	1.08(74)
進学コース(3年)		0.66(5)	0.98(7)	0.87(11)	1.10(14)	1.07(20)	1.08(26)	1.06(42)	1.10(50)	1.06(64)	1.04(79)	1.05(80)
高校専攻科					1.12(2)	1.06(3)	0.77(5)	0.97(6)	0.99(9)	1.00(9)	0.98(10)	1.05(10)
高校衛生看護科		1.11(6)	1.11(12)	1.05(17)	1.16(20)	1.21(24)	1.20(25)	1.17(28)	1.16(34)	1.17(37)	1.19(45)	1.21(46)
准看養成所	0.87(58)	1.08(96)	1.22(108)	1.15(115)	1.17(120)	1.11(127)	1.07(133)	1.00(140)	0.99(144)	0.97(149)	0.92(154)	1.04(151)
保健婦養成所	0.84(9)	0.99(15)	0.99(16)	0.96(16)	1.02(16)	1.07(17)	1.08(18)	1.10(20)	1.09(20)	1.07(20)	1.09(22)	1.05(22)
助産婦養成所	0.68(12)	0.89(17)	0.86(17)	0.93(19)	1.02(18)	1.01(20)	1.06(20)	1 07(20)	1.08(20)	1.08(22)	1.10(24)	1.02(26)
保健婦・助産婦合同校		0.50(2)	0.67(2)	0.65(3)	0.85(3)	0.93(3)	1.02(8)	0.89(12)	0.82(12)	0.96(12)	0.99(13)	1.02(13)

表—29　年次別，養成所別入学定員に対する入学者数の割合　　(( ) は校数)

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学					0.63(2)	0.57(2)	0.43(2)	0.65(2)	0.42(2)	0.82(2)	0.80(2)	1.02(2)
短大(3年)	1.18(2)	1.09(3)	0.99(4)	1.00(5)	0.99(6)	1.04(6)	0.98(6)	1.00(7)	0.86(8)	0.86(9)	0.84(11)	0.88(12)
短大(2年)					1.15(1)	1.01(2)	1.09(2)	1.12(2)	1.04(2)	1.13(2)	1.02(3)	1.32(3)
高等看護学院	0.86(63)	0.98(86)	1.01(92)	1.01(96)	1.98(105)	0.97(110)	0.96(119)	0.94(125)	0.91(134)	0.92(146)	0.90(157)	0.90(156)
進学コース(2年)	0.94(8)	0.92(18)	0.92(17)	0.87(12)	0.92(30)	0.91(37)	0.99(47)	0.99(57)	0.93(61)	0.99(67)	0.99(74)	0.96(74)
進学コース(3年)		0.59(5)	0.85(7)	0.81(11)	1.01(14)	1.01(20)	1.01(26)	1.02(42)	1.00(50)	0.97(65)	0.95(79)	0.97(80)
高校専攻科					1.12(2)	1.05(3)	0.76(5)	0.93(6)	0.92(9)	0.94(9)	0.90(10)	0.98(10)
高校衛生看護科		1.06(6)	1.02(12)	0.95(17)	1.03(20)	1.11(24)	1.09(25)	1.10(28)	1.10(34)	1.07(37)	1.07(45)	1.06(46)
准看養成所	0.84(58)	1.01(97)	1.15(108)	1.10(115)	1.11(120)	1.06(127)	1.00(133)	0.93(140)	0.92(144)	0.89(149)	0.83(154)	0.95(151)
保健婦養成所	0.88(9)	0.92(15)	0.89(16)	0.90(16)	0.93(16)	0.96(17)	0.96(18)	1.02(20)	1.01(20)	1.01(20)	1.01(22)	0.95(22)
助産婦養成所	0.64(12)	0.77(17)	0.76(19)	0.80(19)	0.90(19)	0.86(20)	0.92(20)	0.95(20)	0.95(20)	0.97(22)	1.04(24)	1.03(26)
保健婦・助産婦合同校		0.50(2)	0.67(2)	0.65(3)	0.85(3)	0.93(3)	0.92(8)	0.76(12)	0.68(12)	0.82(12)	0.87(13)	0.91(13)

出すると思われる。応募者の中で受験する者の割合は大学は調査校が1校のみであるが71％（昭和50年年度），短大（3年）78％（昭和50年度）であるが，他の養成所はいずれも90％前後の割合である。

(2) 入学定員に対する入学許可数の倍率

昭和49年度においては，定員に達しない入学許可数の学校は，大学，短大（3年），高校専攻科，准看養成所，保健婦・助産婦合同校であるが，昭和50年度においてはいずれの学校も定員を上回り，定員の約2％から38％の間で，その程度は異なるが，定員を超える学生を入学許可している。

(3) 入学定員に対する入学者数の割合

大学においては，調査回答校は2校のみであるが，昭和43年～昭和47年まで定員の40％～60％が入学者数であったが，受験者数の増加とともに入学者数も増加し，昭和48年82％，昭和49年80％，昭和50年102％となった。

昭和49年度は，定員に対し入学者数80％代は，大学，短大（3年），准看養成所，保健婦・助産婦合同校のみで，定員を超える入学者数は，短大（2年），高校衛生看護科，保健婦養成所，助産婦養成所の4校である。昭和50年度は，短大（3年）の88％を除き90％以上であり，定員を超える入学者数は，大学，短大（2年），高校衛生看護科，助産婦の4校である。

入学定員に対する入学者数の割合は，入学拒否数の動向とそれに関連して入学定員に対する入学許可数によって左右される。

また，入学定員に対する受験者数の倍率にもよるが，入学許可数と合わせ考えると，定員数と同程度の入学者数を確保しようとする努力の

表―30 年次別，養成所別入学数に対する補欠入学者数の割合

（（ ）は校数）

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学	0.08(2)	0.00(3)	0.01(4)	0.00(5)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.06(2)	0.00(2)
短大(3年)					0.02(6)	0.01(6)	0.01(6)	0.00(7)	0.00(8)	0.09(9)	0.05(11)	0.04(12)
短大(2年)					0.00(1)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(2)	0.00(3)	0.01(3)
高等看護学院	0.08(63)	0.12(86)	0.14(92)	0.12(96)	0.13(105)	0.16(110)	0.15(119)	0.15(125)	0.15(134)	0.16(146)	0.15(157)	0.12(155)
進学コース(2年)	0.05(8)	0.07(18)	0.03(17)	0.05(12)	0.06(30)	0.05(37)	0.06(47)	0.07(57)	0.07(61)	0.06(67)	0.06(74)	0.06(74)
進学コース(3年)		0.00(5)	0.00(7)	0.01(11)	0.01(14)	0.02(20)	0.02(26)	0.03(42)	0.04(50)	0.04(65)	0.04(79)	0.05(80)
高校専攻科					0.00(2)	0.00(3)	0.00(5)	0.00(6)	0.04(9)	0.04(9)	0.03(10)	0.06(10)
高校衛生看護科		0.00(6)	0.00(12)	0.02(17)	0.00(20)	0.01(24)	0.00(25)	0.00(28)	0.01(34)	0.01(37)	0.01(45)	0.00(46)
准看養成所	0.03(44)	0.02(76)	0.02(108)	0.04(115)	0.04(120)	0.04(127)	0.03(133)	0.03(140)	0.03(143)	0.03(149)	0.02(154)	0.03(151)
保健婦養成所	0.00(9)	0.02(15)	0.04(16)	0.03(16)	0.01(16)	0.04(17)	0.04(18)	0.05(20)	0.06(20)	0.09(20)	0.08(22)	0.09(22)
助産婦養成所	0.00(12)	0.01(17)	0.00(19)	0.01(19)	0.02(19)	0.04(20)	0.05(20)	0.07(20)	0.06(20)	0.05(22)	0.07(24)	0.07(26)
保健婦・助産婦合同校		0.00(2)	0.00(2)	0.00(3)	0.00(3)	0.07(3)	0.04(8)	0.06(12)	0.03(12)	0.04(12)	0.06(13)	0.09(13)

跡がみられる。

(4) 入学数に対する補欠入学者数の割合

補欠入学者の割合の最も多いのは高等看護学院である。昭和50年は12%であるが，昭和44年～昭和47年は少し増加して15～16%である。短大（3年）は昭和48年以降少し増加し，保健婦養成所，助産婦養成所は昭和44年以降4～9%である。進学コース（2年），准看養成所は昭和40年以降あまり変化はない。

高等看護学院について，補欠入学記入校のみについて考えると，1校当りの補欠入学者数は昭和49年8.1，昭和50年7.4である。昭和49年，昭和50年の平均入学数はそれぞれ34.7，35.3であるので，入学数に対する割合は，それぞれ23%，21%である。また，補欠入学者記入校は，昭和49年157校中99校（63%），昭和50年156校中93校（60%）である。

年次別でみると，昭和45年が最も多く9.4人，以降わずかに減少している。地方別にみても昭和45年または昭和44年が最も多く，わずかではあるが減少している。中国，四国・九州地方が昭和45年以降やや多い。

補欠入学者数のみでは，入学拒否者の多寡またその動向を論ずることはできない。補欠入学者に対する補欠入学者，すなわち第2次補欠入学者を考慮に入れないとしても，入学許可学生数の割合を高くすれば，入学拒否学生があっても補欠入学者を考慮に入れる必要はない。従って入学許可数，入学者数・補欠入学者数を考慮した入学拒否学生数の動向を考える必要がある。

(5) 入学許可数に対する入学拒否学生数の割合

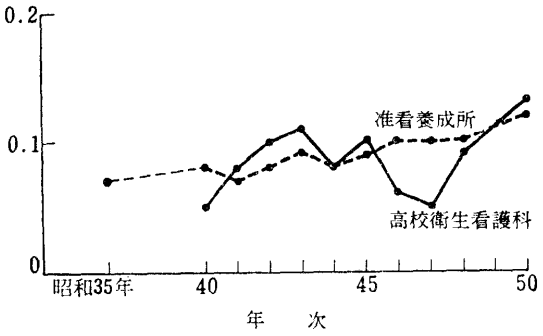
表－31 地域別，年次別高等看護学院1校あたり補欠入学者数（補欠入学者記入校のみ）

（（ ）は校数）

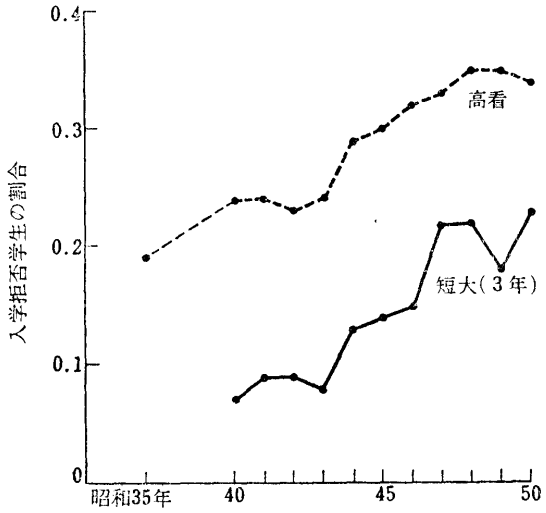
	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
全国	5.4(21)	7.0(41)	7.1(55)	6.6(54)	6.8(59)	8.0(65)	9.4(61)	8.2(75)	8.4(77)	8.8(90)	8.1(99)	7.3(93)
北海道・東北	4.3(4)	6.0(7)	5.7(9)	4.9(9)	4.3(9)	6.1(12)	5.1(11)	4.6(14)	7.5(13)	8.5(19)	8.5(18)	5.1(16)
関東	4.8(5)	6.5(6)	9.3(9)	7.3(8)	8.0(10)	8.8(10)	8.7(10)	7.8(13)	6.3(14)	7.9(16)	8.3(21)	7.3(18)
北陸・東海	8.0(1)	5.5(6)	6.9(7)	5.8(6)	6.6(7)	8.7(7)	10.1(8)	7.0(10)	8.7(10)	8.6(14)	6.4(15)	5.7(15)
近畿	1.0(1)	7.6(5)	5.8(6)	6.2(5)	5.7(6)	5.7(7)	9.3(6)	10.4(7)	8.9(7)	8.6(7)	5.3(10)	6.3(8)
中国	7.3(3)	9.1(7)	9.3(8)	8.9(9)	8.9(8)	8.9(9)	10.5(8)	11.0(9)	10.0(11)	10.6(13)	11.0(14)	9.1(14)
四国・九州	5.9(7)	7.1(10)	6.6(15)	6.4(16)	6.9(18)	9.0(20)	12.3(17)	9.7(21)	9.4(21)	9.0(20)	8.4(20)	9.7(21)

表—32　年次別，養成所別入学許可数に対する入学拒否学生の割合　　（　）は校数）

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学					0.03(2)	0.08(2)	0.04(2)	0.02(2)	0.00(2)	0.09(2)	0.10(2)	0.03(2)
短大(3年)	0.36(1)	0.07(3)	0.09(4)	0.09(5)	0.08(6)	0.13(6)	0.14(6)	0.15(7)	0.22(8)	0.22(9)	0.18(11)	0.23(12)
短大(2年)					0.00(1)	0.03(2)	0.04(2)	0.02(2)	0.09(2)	0.02(2)	0.00(3)	0.05(3)
高等看護学院	0.19(62)	0.24(86)	0.24(92)	0.23(96)	0.24(105)	0.29(110)	0.30(118)	0.32(123)	0.33(133)	0.35(145)	0.35(156)	0.34(156)
進学コース(2年)	0.13(8)	0.10(18)	0.08(17)	0.10(12)	0.11(30)	0.10(37)	0.10(47)	0.12(57)	0.14(61)	0.12(67)	0.15(74)	0.16(74)
進学コース(3年)		0.10(5)	0.02(7)	0.08(11)	0.09(14)	0.08(20)	0.08(26)	0.06(42)	0.12(50)	0.11(64)	0.12(79)	0.13(80)
高校専攻科					0.00(2)	0.01(3)	0.01(5)	0.04(6)	0.08(9)	0.10(9)	0.11(10)	0.12(10)
高校看護科		0.05(6)	0.08(12)	0.10(17)	0.11(20)	0.08(24)	0.10(25)	0.06(28)	0.05(34)	0.09(37)	0.11(45)	0.13(46)
准看養成所	0.07(59)	0.08(97)	0.07(108)	0.08(115)	0.09(120)	0.08(127)	0.09(133)	0.10(140)	0.10(143)	0.10(149)	0.11(154)	0.12(151)
保健婦養成所	0.03(9)	0.09(15)	0.13(16)	0.09(16)	0.10(16)	0.14(17)	0.15(18)	0.13(20)	0.13(20)	0.14(20)	0.15(22)	0.17(22)
助産婦養成所	0.07(12)	0.14(17)	0.11(19)	0.15(19)	0.14(19)	0.18(20)	0.17(20)	0.18(20)	0.17(20)	0.16(22)	0.16(24)	0.13(26)
保健婦・助産婦合同校		0.00(2)	0.00(2)	0.00(3)	0.00(3)	0.07(3)	0.14(8)	0.20(12)	0.20(12)	0.17(12)	0.18(13)	0.19(13)



図—3　入学許可数に対する入学拒否学生の割合



図—4　入学許可数に対する入学拒否学生の割合

保健婦養成所，助産婦養成所については，入学拒否学生の割合は，昭和44年頃よりそれぞれ13～17%，13～18%と特に増加の傾向を示しているわけではない。

高等看護学院，短大(3年)，進学コース，高校専攻科は，昭和43年においてそれぞれ24%，8%，11%，0%より，昭和50年それぞれ34%，23%，16%，12%，と増加の傾向をたどっている。

准看養成所は，昭和41年7%，昭和50年12%と徐々にではあるが増加の傾向を示している。

入学拒否学生の割合は次のように計算した。

$$\text{入学拒否学生の割合} = \frac{\text{入学許可数} - \text{入学数} + \text{補欠数}}{\text{入学許可数}}$$

表—33 (1) 入学許可数に対する入学拒否者の割合の度数分布

短　　大（3年）

拒否割合	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0	0.500	0.333	0	0	0.167	0.167	0.333	0.143	0.125	0	0.091	0.083
0.0—0.1	0	0.333	0.500	0.400	0.500	0.667	0.333	0.286	0.250	0.222	0.182	0.167
0.1—0.2	0	0.333	0.250	0.600	0.333	0	0	0.143	0.250	0.222	0.455	0.167
0.2—0.3	0	0	0.250	0	0	0	0.167	0.429	0.125	0.333	0.182	0.250
0.3—0.4	0.500	0	0	0	0	0.167	0.167	0	0.125	0.111	0	0.250
0.4—0.5	0	0	0	0	0		0	0	0.125	0	0.091	0.083
0.5—0.6	0	0	0	0	0		0	0	0	0.111	0	0
学校数	2	3	4	5	6	6	6	7	8	9	11	12

表—33 (2) 入学許可数に対する入学拒否者の割合の度数分布

高等看護学院

拒否割合	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0	0.349	0.279	0.196	0.189	0.181	0.109	0.169	0.143	0.156	0.116	0.114	0.107
0.0—0.1	0.095	0.140	0.065	0.137	0.086	0.127	0.059	0.087	0.044	0.061	0.051	0.063
0.1—0.2	0.190	0.093	0.228	0.147	0.200	0.173	0.195	0.159	0.163	0.136	0.146	0.151
0.2—0.3	0.127	0.163	0.120	0.179	0.162	0.227	0.110	0.143	0.215	0.116	0.177	0.226
0.3—0.4	0.095	0.105	0.120	0.200	0.171	0.127	0.153	0.175	0.096	0.218	0.184	0.151
0.4—0.5	0.095	0.140	0.228	0.074	0.095	0.118	0.136	0.119	0.119	0.177	0.152	0.094
0.5—0.6	0.032	0.047	0.043	0.063	0.076	0.064	0.102	0.111	0.119	0.109	0.089	0.126
0.6—0.7	0.016	0.023	0	0.011	0.029	0.036	0.051	0.040	0.059	0.020	0.052	0.044
0.7—	0	0.012	0	0	0	0.018	0.025	0.024	0.030	0.048	0.032	0.038
学校数	63	86	92	95	105	110	118	126	135	147	158	159

表—33 (3) 入学許可数に対する入学拒否者の割合の度数分布

高校衛生看護科

拒否割合	昭和40年	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0	0.800	0.667	0.706	0.500	0.625	0.625	0.714	0.647	0.622	0.689	0.630
0.0—0.1	0	0.167	0.059	0.200	0.083	0.125	0.107	0.176	0.189	0.133	0.130
0.1—0.2	0	0	0.118	0.100	0.125	0	0.071	0.059	0.081	0.044	0.087
0.2—0.3	0.200	0.083	0.059	0.150	0.125	0.167	0.036	0.088	0.054	0.022	0.022
0.3—0.4	0	0.083	0	0	0	0.083	0.071	0.029	0.027	0.067	0.065
0.4—0.5	0	0	0.059	0.050	0.042	0	0	0	0.027	0.044	0.065
0.5—0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学校数	6	12	17	20	24	24	28	34	37	45	46

表—33 (4) 入学許可数に対する入学拒否者の割合の度数分布

准看養成所

拒否割合	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0.0	0.610	0.557	0.564	0.539	0.496	0.484	0.524	0.479	0.479	0.436	0.494	0.462
0.0—0.1	0.102	0.072	0.136	0.139	0.149	0.125	0.135	0.141	0.153	0.188	0.156	0.139
0.1—0.2	0.085	0.216	0.145	0.165	0.124	0.172	0.150	0.134	0.118	0.121	0.104	0.127
0.2—0.3	0.102	0.072	0.082	0.087	0.140	0.148	0.105	0.148	0.104	0.114	0.078	0.095
0.3—0.4	0.034	0.031	0.027	0.026	0.050	0.063	0.068	0.035	0.063	0.087	0.065	0.063
0.4—0.5	0.051	0.041	0.036	0.035	0.041	0.008	0.023	0.049	0.028	0.020	0.032	0.063
0.5—0.6	0.017	0.010	0.009	0.017	0	0	0.008	0.007	0.042	0.027	0.032	0.032
0.6—0.7	0	0	0	0	0	0	0.008	0	0.007	0.007	0.039	0.019
0.7—	0	0	0	0	0	0	0	0.007	0.007	0	0	0
学校数	59	97	110	115	121	128	133	142	144	149	154	158

さらに，各学校の入学拒否者の割合の度数分布(相対度数)を作ってみると表—33の(1)～(4)にみられるように，学校間の格差はかなり大きい。

入学拒否者0については，大学2校中1校，短大(3年)8%，進学コース(2年)18%，進学コース(3年)19%，高等看護学院11%，高校専攻科40%，高校衛生看護科63%，准看養成所46%，保健婦養成所14%，助産婦養成所31%である。

入学拒否学生の割合30%以上については，昭和50年において，短大(3年)12校中33%，高等看護学院159校中45%，進学コース(2年)73校中14%，進学コース(3年)81校中11%，高校専攻科10校中10%，高校衛生看護科46校中13%，准看養成所158校中18%，保健婦養成所22校中18%，助産婦養成所26校中15%，保健婦・助産婦合同校13校中23%である。特に，高等看護学院において50%以上の割合を示す学校数は159校中20%を超える。

高等看護学院，短大(3年)の入学拒否学生の割合は高く，今後ますます増加してゆくことが予想される。自分の志望する学科，将来の職業に対する選択の自由が増大する可能性があるので当然であろう。

(6) 入学成績の動向

成績はすべて100点満点中の平均点である。

しかし，学校の種類が異なればもち論であるが，同じ種類の学校であっても，年次間の比較，各学校間の比較も困難である。それは，各学校によって，また年次により出題者が異なるためであり，従って，試験問題の難易度は学校により，また年次により異なるためである。

加えて，平均点を記入した学校は，40%～70

表—34 養成所別入学成績の動向

(( ) は校数)

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学												
短大(3年)	48.7(1)	57.3(1)	67.6(2)	70.4(2)	70.0(2)	68.3(2)	59.4(2)	55.2(3)	57.5(3)	60.7(3)	58.7(3)	57.0(4)
短大(2年)												
高等看護学院	60.8(25)	61.0(41)	63.9(47)	65.5(49)	65.6(57)	62.6(61)	58.5(66)	59.3(78)	57.0(85)	56.6(99)	57.1(107)	55.9(111)
進学コース(2年)	66.1(5)	64.5(8)	67.7(7)	68.6(6)	65.6(15)	63.5(18)	62.5(23)	62.0(30)	61.1(33)	57.2(36)	58.3(45)	56.4(46)
進学コース(3年)		57.3(5)	56.4(5)	60.6(6)	66.5(7)	69.2(11)	64.5(15)	61.2(29)	62.9(33)	59.1(43)	59.8(58)	61.1(60)
高校専攻科					56.3(1)	52.9(1)	63.6(1)	57.4(3)	57.6(4)	56.9(4)	52.1(4)	58.8(5)
高校衛生看護科			46.3(1)	46.4(3)	44.3(5)	47.0(7)	44.8(8)	46.7(9)	50.4(15)	46.6(16)	48.1(20)	49.1(20)
准看養成所	61.2(23)	54.4(46)	55.5(49)	56.0(58)	56.6(68)	55.5(75)	54.8(79)	54.2(82)	52.5(85)	52.0(98)	51.4(103)	52.5(101)
保健婦養成所	52.0(1)	62.5(4)	64.6(4)	66.4(4)	60.3(4)	67.2(5)	69.3(6)	70.8(8)	65.7(8)	62.4(8)	61.1(11)	60.8(10)
助産婦養成所	78.5(5)	73.1(7)	78.0(10)	78.7(12)	77.0(12)	78.9(12)	78.0(15)	70.9(15)	74.0(16)	72.9(17)	71.8(20)	70.3(21)
保健婦・助産婦合同校							67.5(2)	71.4(5)	62.2(6)	63.6(6)	60.4(7)	66.7(7)

表—35 (1) 年次別，養成所別入学者成績の度数分布

	短大(3年)											
	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0—10点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10—20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20—30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30—40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40—50	1.000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50—60	0	1.000	0	0.500	0	0	0.500	0.667	0.667	0	0.667	0.500
60—70	0	0	0.500	0	0.500	0.500	0.500	0.333	0.333	1.000	0.333	0.500
70—80	0	0	0.500	0	0.500	0.500	0	0	0	0	0	0
80—	0	0	0	0.500	0	0	0	0	0	0	0	0
学校数	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4

表—35 (2) 入学者成績の度数分布

	高等看護学院											
	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0—10点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10—20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20—30	0	0	0	0	0	0	0	0.013	0	0	0	0
30—40	0.040	0.049	0.021	0	0.018	0.049	0.045	0.026	0.059	0.030	0.047	0.036
40—50	0.240	0.146	0.064	0.143	0.070	0.066	0.182	0.154	0.141	0.273	0.234	0.225
50—60	0.280	0.220	0.340	0.102	0.228	0.246	0.394	0.333	0.459	0.354	0.364	0.378
60—70	0.200	0.366	0.255	0.469	0.333	0.361	0.197	0.385	0.235	0.263	0.280	0.315
70—80	0.200	0.195	0.277	0.245	0.298	0.246	0.167	0.090	0.106	0.051	0.047	0.036
80—	0.040	0.024	0.043	0.041	0.053	0.033	0.015	0	0	0.030	0.028	0.009
学校数	25	41	47	49	57	61	66	78	85	99	107	111

表－35 (3) 入学者成績の度数分布

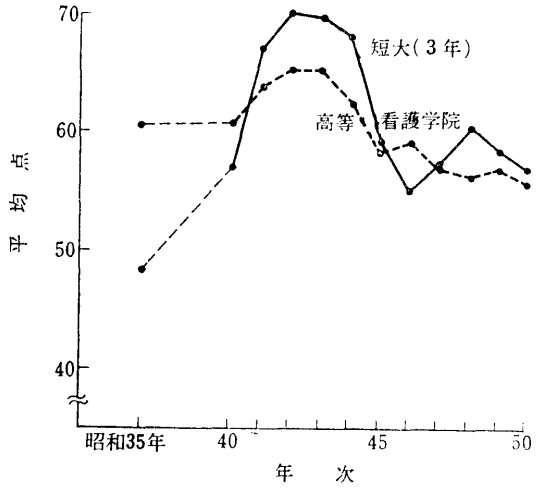
高校衛生看護科

	昭和41年	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0－10点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10－20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20－30	0	0	0.200	0	0.125	0	0	0.063	0	0
30－40	0	0	0	0.236	0.250	0.222	0.133	0.188	0.100	0.200
40－50	1.000	1.000	0.600	0.286	0.125	0.333	0.333	0.250	0.600	0.250
50－60	0	0	0.200	0.286	0.250	0.333	0.333	0.375	0.100	0.450
60－70	0	0	0	0.143	0.250	0.111	0.133	0.125	0.200	0.100
70－80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学校数	1	3	5	7	8	9	15	16	20	20

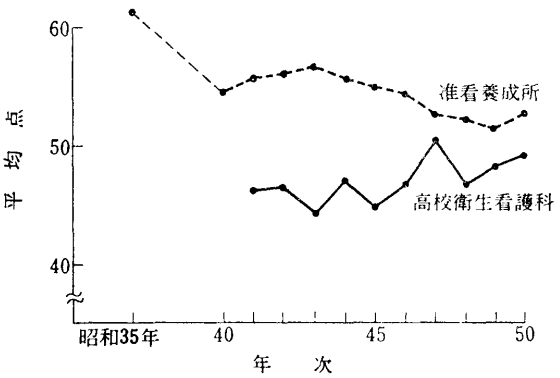
表－35 (4) 入学者成績の度数分布

准看養成所

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
0－10点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10－20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20－30	0	0.022	0.020	0	0	0	0.013	0	0.012	0.051	0.029	0.010
30－40	0.045	0.043	0.020	0.052	0.015	0.027	0.089	0.073	0.141	0.143	0.097	0.069
40－50	0.136	0.196	0.265	0.138	0.162	0.230	0.278	0.280	0.212	0.245	0.311	0.327
50－60	0.182	0.304	0.306	0.397	0.426	0.320	0.228	0.305	0.353	0.316	0.272	0.238
60－70	0.455	0.304	0.306	0.293	0.309	0.267	0.253	0.232	0.259	0.214	0.223	0.307
70－80	0.091	0.130	0.082	0.121	0.074	0.093	0.127	0.098	0.024	0.031	0.058	0.050
80－	0.091	0	0	0	0.015	0.013	0.013	0.012	0	0	0.010	0
学校数	22	46	49	58	68	75	79	82	85	98	103	101



図—5　入学成績の動向（平均点）



図—6　入学成績の動向（平均点）

%であり，これも考慮しなければならない。以上の条件の下で，表—34は記入校全部の平均点を示してある。

高校専攻科，保健婦・助産婦合同校は平均点は低下していない。しかし，短大（3年），高等看護学院，進学コース（2年），准看養成所，保健婦養成所，助産婦養成所は昭和41年，42年に比べると昭和49年，50年の成績は低い点である。進学コース（3年）は，昭和43年，44年が高い。高校衛生看護科は平均点が少し増加の傾向にある。

しかし，これは上に述べたように，入学した学生が質的に低下したかどうかと直接結びつけ

表—36　年次別，養成所別入学数に対する卒業数の割合

（　）校数

	昭和35年	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
大学									0.76(2)	1.03(2)	1.00(2)	0.87(2)
短大(3年)					0.96(3)	0.97(4)	0.96(5)	0.98(6)	0.92(6)	0.93(6)	0.96(7)	0.95(8)
短大(2年)							0.98(1)	0.94(2)	0.96(2)	0.91(2)	0.97(2)	0.94(2)
高等看護学院					0.96(83)	0.96(89)	0.97(93)	0.96(102)	0.95(107)	0.96(116)	0.95(122)	0.94(131)
進学コース(2年)				0.96(15)	0.96(16)	0.98(11)	0.97(28)	0.98(35)	0.97(46)	0.96(55)	0.97(59)	0.96(62)
進学コース(3年)					0.82(5)	0.74(7)	0.82(11)	0.83(14)	0.83(20)	0.85(26)	0.80(42)	0.83(49)
高校専攻科							0.96(2)	0.96(3)	0.96(5)	0.94(6)	0.91(9)	0.92(9)
高校衛生看護科					0.97(6)	0.97(12)	0.99(17)	0.98(19)	0.97(24)	0.97(25)	0.97(28)	0.97(33)
准看養成所				0.93(95)	0.89(107)	0.91(114)	0.89(119)	0.90(126)	0.89(133)	0.89(139)	0.87(140)	0.88(146)
保健婦養成所			0.99(15)	0.99(16)	0.99(16)	0.99(16)	1.00(17)	0.99(18)	0.99(20)	0.99(20)	0.99(20)	0.99(22)
助産婦養成所			0.95(15)	0.97(18)	0.99(18)	0.99(18)	0.99(19)	0.98(19)	0.99(19)	0.99(19)	1.00(21)	0.99(23)
保健婦・助産婦合同校			1.00(2)	0.96(2)	0.95(3)	1.00(3)	0.98(3)	1.00(8)	1.00(12)	0.98(12)	0.98(12)	1.00(13)

表—37　設置主体別入学状況（昭和50年度）

	国	都道府県	市町村	日赤，済生会 北社協，厚生連	医師会	その他
高等看護学院						
受験数／定員	3.02 (55)	3.45(32)	3.35 (21)	2.9 (24)	1.09 (4)	3.51 (23)
入学許可数／定員	1.11 (55)	1.17 (33)	1.25 (21)	1.25 (23)	1.04 (4)	1.21 (23)
入学数／定員	0.92 (55)	0.84 (33)	0.92 (21)	1.00 (24)	0.93 (4)	0.94 (24)
補欠数／入学数	0.146(55)	0.127(33)	0.048(21)	0.103(24)	0.00 (4)	0.111(24)
入学許可－入学＋補欠／入学許可	0.291(55)	0.370(33)	0.300(21)	0.281(17)	0.105 (4)	0.340(24)
成績	56.0 (37)	52.8 (24)	54.6 (15)	47.3 (17)	63.9 (3)	58.6 (16)
准看養成所						
受験数／定員	1.42 (17)	1.21 (12)	1.31 (20)	1.53 (12)	1.18 (66)	1.15 (21)
入学許可数／定員	0.99 (19)	0.96 (12)	1.10 (20)	1.19 (12)	1.06 (68)	0.97 (21)
入学数／定員	0.89 (19)	0.78 (12)	0.89 (20)	0.96 (12)	1.00 (64)	0.93 (22)
補欠数／入学数	0.045(19)	0.02 (12)	0.029(20)	0.022(12)	0.033(64)	0.037(22)
入学許可－入学＋補欠／入学許可	0.145(14)	0.205(12)	0.214(20)	0.207(12)	0.084(68)	0.072(21)
成績	53.8 (10)	50.2 (8)	46.7 (16)	53.5 (9)	49.3 (41)	58.8 (15)

注）（　）学校数

ることはできない。しかし，短大（3年），高等看護学院，准看養成所の定員に対する受験者数の倍率をみると，昭和41年～44年に高かったことを考えると，入学した学生の成績が実際に低下したのではないかという疑問は残る。しかし，またそうであったとしても，高校生，中学生全体の傾向であって，これら学校の特有の現象ではないかもしれない。

短大（3年），高等看護学院，高校衛生看護科，准看養成所の各校の平均点の度数分布をみると，40点～70点が90%以上を占める。

(7)　入学数に対する卒業数の割合と卒業数に対する国家試験合格者数の割合

入学数に対する卒業数の割合は，昭和50年において，大学87%，進学コース（3年）87%，准看養成所88%で，他の養成所はすべて90%以上である。在学中に方針を変え，中途退学する学生は多くない。

また，卒業後の99%以上，従って，卒業生は例外を除いて看護婦，准看護婦としての資格試験に合格している。保健婦，助産婦についても同様である。

(8)　設置主体別入学状況

表—37は高等看護学院，准看養成所について，設置主体別に昭和50年の主な入学状況の指標を計算したものである。

高等看護学院に関しては，学校数の少ない医師会による学校を除くと特に目立った差はみられない。

准看養成所に関しては，入学許可数に対する入学拒否学生の割合が，医師会，その他と比較すると，国，市町村，都道府県，日赤・済生会・北社協・厚生連による学校では高いようである。

4. 考　察

看護関係学校の管理，運営の是非，学生生活に関する考察，さらに学生の看護関係職業に対する職業観，将来像といったことが根本的に関係してくると思われるが，ここでは，入学状況といった限られた資料からみて，多少なりとも問題点について近い将来，すなわち5年後の昭和56年を目標として改善すべき点をあげて論じてみたいと思う。

それは，ヘルスマンパワーの中で看護職員の問題は緊急を要するもので，質量ともに教育制度とも関連し，何年も放置することは許されない現状である。

従って，もし完全性を求めるならば伝統的な日本の社会に根差すものとも関連しており，改善は不可能となろう。理想は理想として，実現可能な道を模索すべきで，以下の議論，提案は少なくともよりよい方向であり，改善の可能性もあると考えている。

看護関係学校の中で議論の焦点となっているのは准看養成所である。それは，ここ10年来経済的発展，社会的要求の変化として国民の教育に対する要求が変化し，高校進学は中学卒の90%に達し，すなわち実質的にほとんど義務教育化している現状から，中学卒を資格とする准看養成所の存在についての議論である。

入学状況のなかから主な指標をみると，入学定員に対する受験学生の倍率は，昭和41年～43年の1.5～1.6倍から，昭和48年1.09倍，昭和49年1.04倍，昭和50年は少し増加して1.22倍と低下している。また，定員以下の学校の割合は，昭和50年27%であるが，昭和49年51%，昭和48年44%と，昭和40年～42年の20%前後と比較して増加している。定員の1.5倍未満の割合は，昭和48年81%，昭和49年82%，昭和50年75%と大半を占めており，高校卒入学が45%であることを考えると，中学卒学生のみではほとんどの学校の受験数は定員未満となるであろう。また，高校卒准看養成所入学者は中学卒学生が定時制高校に入学しないという条件ではあるが，卒業後72%進学コースに入学すると予想されること，高校進学率はますます高くなる可能性を考えると，その存在理由が問われるのは当然である。

入学拒否学生の割合は，徐々にではあが増加の傾向にある。学校側の考えている入学拒否の主な理由として最も多いのは看護関係以外の学校進学で，すなわち中学卒は普通高校へ，高校卒は大学，短大を考えているのであろう。

入学者の成績も，比較することは困難であるが低下の傾向を示している。また，質的低下を示す調査結果を発表している論文もある。

従って，看護関係職員養成の中で最大の供給源である准看養成所の存在が近い将来きわめて困難な状況におかれることは明白である。しかし，量的な意味でも，国際比較，日本での医療施設と関連した将来予測の結果などから，看護関係職員の減少は許されない。

そこで高校衛生看護科の入学状況を検討する必要がある。

入学定員に対する受験数の倍率は，昭和48年を底としてやや減少したが，現在回復している。入学拒否学生の割合は，昭和49年，50年

表—38　高校専攻科入学者中の高校衛生看護科出身者の割合　　(( ) 校数)

	昭和43年	44	45	46	47	48	49	50
高校専攻科	1.00(2)	0.89(2)	0.77(4)	0.80(5)	0.83(7)	0.88(7)	0.85(7)	0.90(7)

と増加の傾向を示しているが，准看養成所と同程度である。また，入学者成績（平均点）は減少の傾向をみせていない。

また，高校衛生看護科出身者は，その48%が進学コースに進学し，高校専攻科学生の90%を占め，すなわち高校衛生看護科卒業生の約11%が高校専攻科に入学し，進学コース進学と合計して約59%の進学が推定される。従って，定時制高校に入学しないという仮定ではあるが，准看養成所中学卒学生の進学率 12% と比較すると高校衛生看護科の方が望ましいといえる。

以上から，准看養成所はむしろ廃止の方向に向うべきであり，代って高校衛生看護科を増設すべきである。

准看護婦よりも看護婦養成を主力とすべきことは国際比較などでも明らかで，たとえ約60%が看護婦養成校に入学するとしても，准看養成所の廃止に伴い，代りにすべて高校衛生看護科の増設で補うべきではない。

そこで問題となるのは，現在看護婦養成の主力である高等看護学院と短大（3年）の検討が必要となる。

入学定員に対する受験数の倍率は，高等看護学院において昭和41年～44年の5～6倍より昭和49年，50年は3倍以下と大幅に低下し，短大（3年）も3.5倍前後より2～2.5倍と低下している。しかし，高等看護学院の倍率は短大より常に高い。

さらに，各校の受験倍率を度数分布表にすると，定員未満の学校数は，短大(3年)で昭和50年12校中8%，昭和49年11校中27%，昭和48年9校中22%であり，高等看護学院の昭和50年159校中6%，昭和49年158校中6%，昭和48年147校中5%と比較してむしろ多い。

入学許可数に対する入学拒否学生の割合は，両者共に増加の傾向にあるが，ここ3～4年高等看護学院は35%前後で横這いであるが，短大は昭和50年23%と高等看護学院より少ないが増加の傾向は続くと予想される。入学拒否学生の増加は看護関係以外の学校への入学も増加すると思われるので，質的低下に関連してくる。

入学成績は両者ともに昭和41年～44年に比較して低下しているが，受験倍率と同じような傾向であるから質的低下の疑いが残る。

これらに加えて，受験応募者の中で受験しなかった者の割合は，昭和50年で短大22%，高等看護学院12%を示し，学生の志望学科，職業に対する選択の自由の増加が予想される。

以上の指標の動向のみからみると，受験生は高等看護学院に比較し短大を志向していない。従って，高等看護学院をすべて短大にすべしという議論は，学校数からいっても受験生の動向からいっても早急には実現は無理で，もう少し時間を必要としよう。

いずれにしても，これ等の現象に関する調査，資料の解析等行なうべきで，その上でどのよう

な道（配分等）を歩むべきか検討すべきではなかろうか。

高等看護学院，短大両者ともに，入学拒否学生の割合の増加，入学定員に対する受験生の倍率の低下，入学者質的低下の疑いなど問題点があるとしても，准看養成所廃止の方向に対し，大部分この両者で補う以外にないように思われる。

以上から，5年後の計画として漸次准看養成所を廃止し，その20%強5,500に対し高校衛生看護科の増設，従来の学校と合計し12,000の准看護婦を養成する。

高等看護学院，短大（3年）両者で30,000名の看護婦養成，すなわち現在の約2.4倍の増設をする。

大学は，看護関係の教育，研究，研修の中心，保健婦，助産婦教育と合わせて，少なくとも各県に1校増設し，約5,000名の養成を考える。保健婦，助産婦はすべて大学卒とする。

進学コースは，高校専攻科も含めて，漸次高校衛生看護科の卒業生を教育するだけの施設を残す。

以上で合計47,000名の卒業生であるが，日本の現在の医療施設，すなわち，110万を超える病床数，診療所など考えると最低の人数である。現在の病床数が調和を失して多いことはもち論であるが，現実を肯定すれば，さらに看護婦養成施設を増設しなければならない。

しかし，上述したように，入学状況の各指標を考えるならば，増設が容易でないことは明白である。

そこで，職業として看護婦志願の高校生，中学生を増加させることが緊急である。種々問題点もあろうが，学科・職業に対する選択の自由の増大の予想と合わせ考えて，仕事の内容の重要さ，厳しさと相まって，給与体系の改善が是非とも必要ではなかろうか。また，経済の動向にも左右されると思うが，給与体系の改善により，離職率が多少なりとも緩和されるのではなかろうか。

5. むすび

准看養成所は総数の2/3，その他はすべての学校に調査を依頼し，回収率は49%であった。

結果の要約は次の通りである。

1）学校の種類，設置主体により異なるが，寮の有無，寮費徴収の有無などから，大なり小なり設置母体の援助があると思われる。

2）定時制高校への入学がないと仮定すると，准看養成所中学卒学生の進学コースへの進学率は12%，高校卒学生の進学率は72%と推定される。

高校衛生看護科卒業生が，進学コース，高校専攻科に進学する率は59%と推定される。

3）昭和50年において，九州・東北出身者は高等看護学院，進学コース，准看養成所ともに全体の約40%である。

4）学校側では，入学拒否学生の中で看護関係以外の学校に入学する者は，准看養成所では最も多く，高等看護学院でも多数あると考えているようである。

5）入学定員に対する受験生の倍率は，短大（3年），高等看護学院，進学コース（2年），准看養成所で，昭和45年頃より低下の傾向に

ある。

最も低下したと思われる昭和49年で，定員未満の受験数の学校は，短大（3年）27%，高等看護学院6%，高校衛生看護科7%，准看養成所51%である。

入学許可数に対する入学拒否学生の割合は，短大（3年），高等看護学院，進学コース，高校専攻科，高校衛生看護科，准看養成所は増加の傾向である。

入学成績は，年次，学校間の問題の難度の差を無視すれば，短大（3年），高等看護学院，進学コース，准看養成所は昭和45年頃より低下の傾向にある。

6）看護関係職員養成の将来像は，入学状況の諸指標から近い将来准看養成所を廃止し，高校衛生看護科を12,000名に増設し，高等看護学院，短大（3年）合計30,000名に増設する。また，入学状況の指標からは短大が高等看護学院に比較して優位であるとは思えない。

研究教育の中心として，大学は少なくとも各県に1，校合計5,000名に増設することが望ましい。

しかし，受験倍率の低下，職業選択の自由の増大などを考えると，給与体系の改善が急務ではなかろうか。

資料および文献

1) 看護婦・保健婦・助産婦養成所名簿：医学書院，1974.
2) 方波見重兵衛：平均在院日数に関るす研究，厚生の指標，16(8)：7—17，1969.
3) 方波見重兵衛，金子功，桑原妙子：将来一般病床需給の予測に関する研究，厚生の指標，16(15)：10～23，1969.
4) 方波見重兵衛，金子功：府県別入院率の格差に関する研究，公衆衛生院報告，21(4)191～207，1972.
5) 方波見重兵衛，金子功：病床数からみた医師・看護婦数の現状と将来，厚生の指標，22(6)，1975.
6) 方波見重兵衛：ヘルスマンパワーの将来供給予測，公衆衛生，39(10)，679～692，1975.
7) 前原澄子他：看護学校入学者の動向(1)，看護26(6)，49—58，1974.
8) 前原澄子他：看護学校入学者の動向(2)，看護26(6)，45—51，1974.
9) 前原澄子他：看護学校入学者の動向，看護教育，16(3)，141—151，1975.
10) 岩内亮一，陣内靖彦：看護学校の組織と運営(1)，看護教育，16(5)，277—291，1975.
11) 岩内亮一，陣内靖彦：看護学校の組織と運営(2)，看護教育，16(6)，351—364，1975.
12) 宗像恒次：看護職者の労働問題，月刊労働問題，8号，No.212，4—13，1975.

編集者註

考察に書かれている提言は，あくまでも方波見氏個人の見解である。看護職員の確保に関して，協会は氏と異なる考え方をもっている。氏は質的な面も考慮しつつ量的確保の必要性に応ずるための当面の対策を提起しているが，協会としては，当面の対策をたてる際にも質の向上をはかるということを中心にすべきだと考えている。なぜならば，現状において，質的な面での問題が山積みし，また質的な向上をはからなければ量の確保すらますます困難になると考えるからである。つまり，看護マンパワー問題の解決は，看護に関する行財政基盤の強化に待つところが大きいが，そのためには，国民の看護への期待が高まること，換言すれば，看護職員の質が向上し，国民のニードによりよく対応できるということがきわめて重要だからである。高校衛生看護科については，一般的な看護教育としてはともかく，職業として看護にたずさわる資格の教育としてはふさわしくないという立場に立っている。